

# 研究協力のお願い

この研究は、大阪医科大学 研究倫理委員会にて審査され、研究機関の長の許可を受けたうえで実施しております。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願ひ致します。

大阪医科大学 病理学教室

記

研究の名称	脾臓および唾液腺病変におけるタフト細胞の機能の検討
対象	2013年1月1日から2023年12月31日までの期間に脾臓切除術および唾液腺切除術を受けた患者さんの既存のHE標本およびパラフィンブロックを研究に利用いたします。本学では、200例（脾臓100例、唾液腺100例）を予定しています。
研究期間	研究実施許可日 ~ 2028年12月31日
試料・情報の利用目的及び利用方法	利用目的：脾臓の腺房細胞が導管細胞様に変化する acinar-ductal metaplasia (ADM) と呼ばれる現象は、腺房細胞の再生・組織修復に関与し、さらに腫瘍発生にも関係していることが知られています。タフト細胞は気道、唾液腺、消化管や脾臓に存在する化学受容体細胞です。マウスマodelでは ADMにおけるタフト細胞の出現は、腺房細胞の再生・組織修復や腫瘍発生に関係していることが報告されています。しかし、ヒトADMにおけるタフト細胞の存在やその役割については不明です。また、唾液腺にもタフト細胞が存在することが報告されていますが、唾液腺炎や唾液腺における役割については明らかではありません。 本研究課題では、脾臓切除検体において ADM や PanIN と言われる前癌病変などにおいてタフト細胞が存在するかどうかをそのマーカーであ

	<p>るPOU2F3 やタフト細胞が分泌する生理活性物質などの免疫組織化学染色により検討します。また、唾液腺切除検体におけるタフト細胞の有無についても POU2F3 などの免疫組織化学染色を実施し、検討します。</p> <p>利用方法：患者さんの病理診断に用いた既存の HE 標本やパラフィンブロック、および診療情報を抽出し解析を行います。抽出した診療情報は、加工して個人を特定できないように対処したうえで取り扱います。研究結果は学会や学術誌で発表される予定です。</p>
利用し、又は提供する試料・情報の項目	<p>利用又は提供の開始予定日：2024 年 2 月 20 日</p> <p>試料：病理診断に用いた既存の HE 標本およびパラフィンブロック 情報：検査データ、診療記録等</p>
利益相反について	<p>本学は、臨床研究を含む自らの研究成果について積極的に地域社会へ還元することで、社会から求められる研究拠点を目指しております。一方で、研究に関連して研究者が企業から経済的利益を得ている場合には、研究の成果が歪められる、または歪められているとの疑念を抱かれる可能性が出てきます。このような利益相反の状態を適切に管理し、研究の透明性、信頼性および専門性を確保していることを社会に適切に説明するため、この研究は、本学の利益相反マネジメント規程に則して、実施しております。</p> <p>当該マネジメントの結果、本研究に関して開示する事実がない旨をお伝えします。</p>

### 研究者名

【研究責任（代表）者】

大阪医科大学 病理学

講師

石田 光明

### **参加拒否の申し出について**

ご自身の既存のHE標本およびパラフィンブロックを研究に利用させて頂くことに対する問い合わせ、参加拒否を申し出したい場合は、下記の連絡先までお願ひいたします（対象者の代理人からの申し出も受付いたします）。参加拒否の申し出をされた場合は、研究の対象から削除し、研究利用をいたしません。しかしながら、研究結果が出た後の参加拒否の申し出については、研究の対象から削除することができかねますので、予めご了承ください。

### **<問い合わせ窓口>**

#### **【研究機関】**

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

大阪医科大学 病理学教室

担当者 石田 光明

連絡先 072-683-1221（代） 内線 54021

# 研究参加拒否書

大阪医科大学 学長 殿  
大阪医科大学病院 病院長 殿

大阪医科大学  
研究責任者 石田 光明 殿

研究の名称	脾臓および唾液腺病変におけるタフト細胞の機能の検討
-------	---------------------------

私は、上記研究への参加について検討した結果、研究参加を拒否します。

年 月 日 対象者 住所

氏名（自署）

※ご本人が自署できない場合は、代諾者の方がご記入ください。

代諾者（続柄： ）

住所

氏名（自署）